

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼にて理念の唱和をしている。	「地域で暮らすすべての方の尊厳を支え・・・等」の企業理念のもと、4項目にわたる行動指針を定め毎朝の申し送り時に管理者が補足的に話をして意識付けをしています。また、ウエルカム研修で理念の話は内容に入っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩や近隣商店街への買い物を実施している。また町会行事への参加を積極的に行い、クリーンデー等も入居者様と共に参加している。	町会への加入は、当施設の経営母体が株式会社であることからできませんでした。松戸市のクリーンデー等の町会行事には参加しています。また、10月のお祭りには、見学だけでしたが参加しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	不定期ではあるが、ふれあいカフェを開催し地域の方との交流の機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度運営推進会議を開催ししようきの報告を行っている。またそこでの意見を取り入れるようにしている。	2か月に1回の割合で、地域包括センターの方などに参加してもらい開催しています。そこでの意見をもとに「ふれあいカフェ」を2回程催しました。	運営推進会議は、そこから出た意見を施設の運営に活かすという目的があります。その意味で、参加者には内部の方だけでなく、町内会、民生委員など地域の代表も参加して開かれることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者、ケアマネージャーで連携を密におこなっている。	新設ということもあり、介護保険課といろいろな点で相談したり、指導を受けたりしています。3か月ごとに入居状況を報告するほか、市外の方が入居を希望する場合には3か月待機をさせていただき問題等で指導を受けています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に内部研修を実施している。拘束は身体のみならず心の拘束にもつながる事の理解を深めるよう努めている。	身体拘束禁止については、職員には内部研修などでその意識付けをしています。そのほか、日常の具体的な業務を例にとり、なぜ拘束がいけないのか、との基本的な点を中心にその理解を深めるようにしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に内部研修を実施している。どのような事が虐待となるかの理解を深め、注意をはらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常のケアの中で伝達し、権利擁護の制度と理解が深められるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	一方的な説明のみにならないよう、都度、不安や疑問について尋ねている。契約後も不明な点については連絡体制を密にしスムーズな解決に努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加して載っている。	通常は家族が来ていただいた機会に話を聞くようにしています。そのほか、管理者個人のケータイにいつでもかけてくるよう話してあります。その結果、家族からケアに関する話を中心にいろいろな情報を聞かせてもらっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にフロア会議を実施しその機会を設けている。	フロア会議は、月1回くらいの割合で開き、フロアごとの問題点などを全員で話し合います。ここ2、3か月は開かれていません。その代わりに管理者が月1、2回程度、個人面談を行い、そこで、職員の意見の吸収を図っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社のブラザーシスター制度を利用、また定期的に個人面談の時間を設け、内容によっては働きやすい職場環境を目指すために本社の協力を得ている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修に行く機会を設けている。また日常的に個人を把握し都度学んでいけるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各協議会に参加し交流の機会を持っている。また日常的に他事業所を訪問することでネットワークを広げ、新しい取り組みを行うよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントの他、関わりのある人物より情報を戴いたり、ご本人様からの言葉のみならず、表情等からも汲み取っていくよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学にいらした際から、ご家族様の想いに触れるよう努め、寄り添える関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの必要性を考慮し、幅広く他サービスの利用ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生き甲斐と共に生活する仲間との人間関係の構築を目指したケアの実践にこころがけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームの行事の他、24時間いつでも来所・外出可能な環境を提供している。また些細な事でも家族への報告・連絡・相談を行うように心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様の意思とご家族様に協力をえて継続できるよう努力している。	管理者の本人本位の姿勢を反映させ、「聞いても無理」ではなく、利用者の日頃の態度や、利用者と一緒に生活を共にしているスタッフの気づきを取り入れ、スタッフ全員で介護計画に取り組んでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの個性や病気を踏まえ、スタッフが間に入り、関係性が構築できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今後の方向性の相談や支援、状況に応じて契約終了後も配車等の事も行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	目に見えることにとらわれることなく、見えない部分での真のニーズを掘り下げ、絶える事なくその思いや意向を理解していくことに努めている。	日々のかかわりの中で行動を見て、声を掛け、心に寄り添い真の心をさぐり、見えていないニーズを見て支援を続けています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	周囲やご本人様からたくさんの情報をいただきながら、情報共有できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。申し送り・個人記録・個人情報等を活用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・関係者からの意見の取り入れを行っている。	管理者の本人本位の姿勢を反映させ、「聞いても無理」ではなく、利用者の日頃の態度や、利用者と一緒に生活を共にしているスタッフの気づきを取り入れ、スタッフ全員で介護計画に取り組んでいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	細やかな点については少々記録不足な部分がある為、記録の在り方を今後も学び、より良いケアに繋げていけるよう更に努力が必要である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービスの多機能化に取り組み、より良いケアに繋げていく為、スタッフ自身が自由な発想ができる職場環境になるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアさん等に来て戴いたり等の工夫をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	指定訪問医と密に連携をとっているが、状態やご希望に合わせて、医療機関選定を行っている。	月に一度全員が協力医に診察して頂き、健康管理を行っています。また、かかりつけ医院による診察の際、健康管理チェック表と往診ファイルを作成して必要な時持参できる体制が整っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の配置はなく、週に2日在籍している小規模多機能の看護師に相談等を行っている。その他には往診医と密に連絡をとり指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃より定期的にSWを訪問し関係性を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の前段階より場合によっては伝えていく。契約時に改めて説明している。	看取りについては契約の時事業所が対応し得る最大のケアについて説明をしています。重度化したときはご家族と話し合い意向に沿った支援を行う事が出来るようにスタッフ研修を重ね、利用者に感謝が出来る支援体制が出来ています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	開所時に行っているが、定期的な訓練の実施はできていない。日常の中で急変時には連絡体制のマニュアル化はされている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練と自主訓練を行うよう規定がある。	防災の備えとしてスプリンクラー・火災報知器・火災通信装置・火災受信盤を設置する事で、利用者の安全確保は出来ています。また、2か月に一度自主訓練を利用者とスタッフで行っています。	開設から9か月とまだ日がたっていませんが、利用者の命を守ることを最優先におき、消防署と防災訓練の計画を早急に立てる事、運営推進会議を活用して地域の方の協力を得られる災害対策計画をたてる事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	そのひとらしさとは何かを。常にスタッフ間で話していくようにしている。それに合わせて声掛けも変わる等考えている。	利用者の全てを受け止め、利用者が自己決定出来るように心がけ、利用者を尊敬し年長者として敬意を払っています。また、家族のように一緒に生活していてもプライバシーを尊重した言葉かけに十分配慮した支援が来ています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情や行動からも汲み取り、ご本人様が本当はどうしたいかを考えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	極力工夫しているが、状況によってはなかなかできていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服装やお化粧品等が自由にできるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を考えるところから始め、買い出し・調理・盛り付け等を職員と入居者様でともに行っている。会社規定の業者が日頃は入っているため、月の中で日を設けている。	食材は外注していますが、毎月10日・20日・30日は利用者と献立をたて、買い物に行き、調理、盛りつけまで行い食事を楽しむ支援をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録や申し送りで、管理していくようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	行っている。	排泄チェックシートを活用して個々の排泄パターンを把握し、利用者の動きでサインを見逃さずトイレ誘導をし、排泄の自立に向けて職員全員が取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	行っている。主に飲食物での工夫や体を動かす等をし、下剤の服用のない状態を目指している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現状できていない。	利用者が入りたい時間の希望を聞き入れられていませんが、個浴でゆっくり入って頂いたり、ゆづ湯や菖蒲にして楽しんでもらっています。また、仲の良い方同士で入浴したり個々の入浴を楽しむ支援を行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも自由な環境の中で休息がとれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全スタッフの理解と把握までは至っていない為、一覧表を作る等をして対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の買い物にでたり、ボランティアさんに来て戴いたり、様々な工夫をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	極力工夫しているが、状況によってはなかなかできていない。	利用者が行きたいところに必ず行けてはいますが、天気の良い日には日常的に近くのお寺に出かけたり、季節に合わせて遠くに出かけ喜んでいる様子が写真から読み取れます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	行先での支払いを個人に行って戴いたり等の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の意見を取り入れながら行っている。	落ち着ける我が家をとの思いで過度な飾り付けは避け、季節を感じてもらえるように季節ごとの飾りをしたり、小さめのソファを置き一人になりたい時や友達とおしゃべりの場として使えるようにするなどの工夫がされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを活用したり、入居者様同士で居室で話したり、フロアーを歩き来したり、自由に過ごして戴いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫している。	クローゼット、エアコン、カーテン以外は利用者の馴染みのあるものを持ってきてもらい、ベットより布団が落ち着ける方には布団を持ってきていただくなどし、家族の協力のもと、安心して過ごせる環境づくりを行っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	極力工夫しているが、状況によってはなかなかできていない。		